

### Ⅲ 平成19年（2007）の結果

#### 1. がん死亡

##### （1）部位別がん死亡数

平成19年（2007）のがん死亡数は7,739人（男性4,593人、女性3,146人）であった。部位別に死亡数をみると、男では肺がんが最も多く、次いで肝がん、胃がんの順に多かった。女では胃がん、肺がん、肝がんの順で多かった。（図1－1、表9参照）

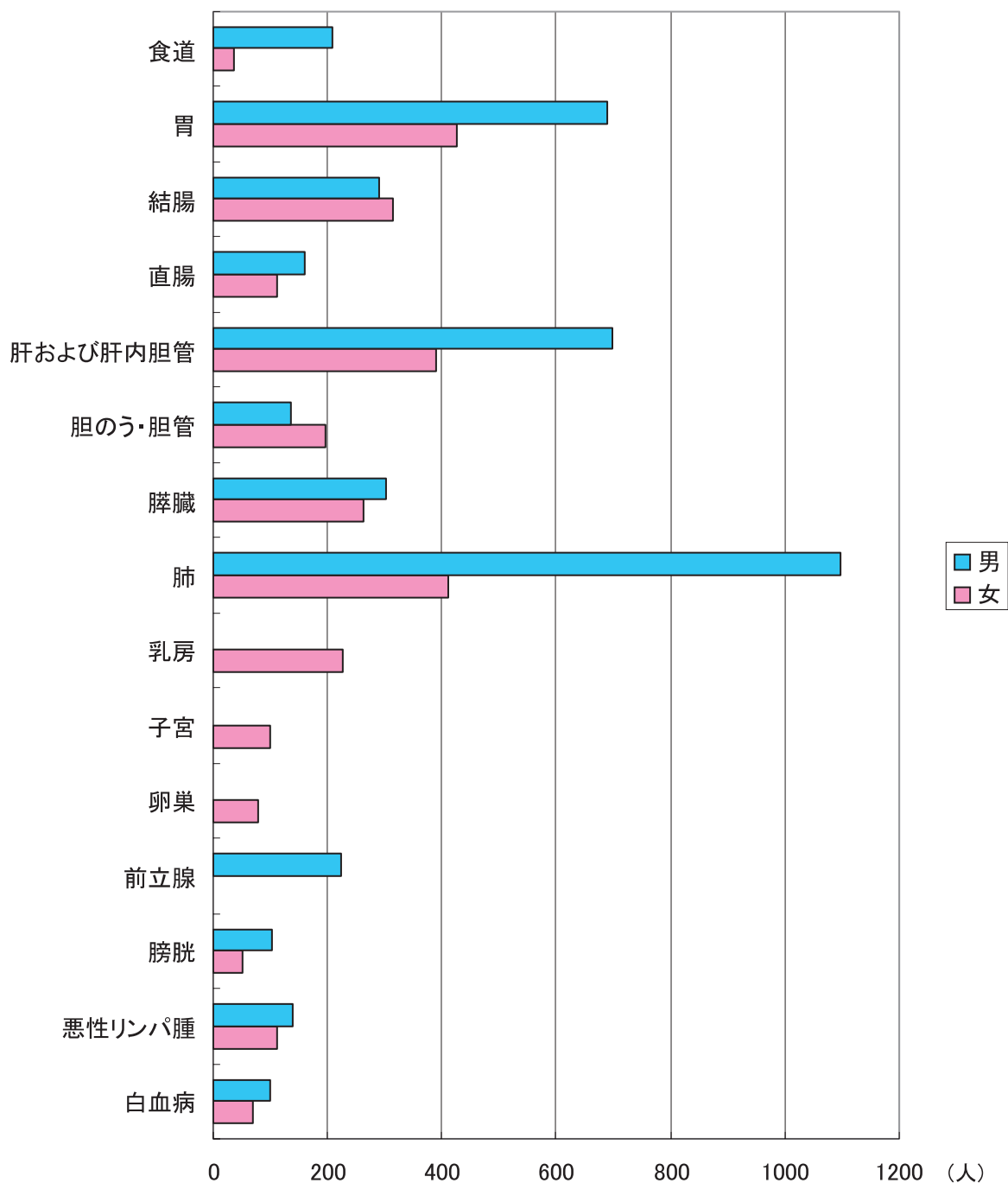


図1－1 部位別がん死亡数

## (2) 全国との比較

全国を基準とする標準化死亡比は全部位で、男が0.97、女が0.97であった。死亡数の多い部位のうち、男女とも肝がんの標準化死亡比が高かった。(図1-2、付表4-C1参照)

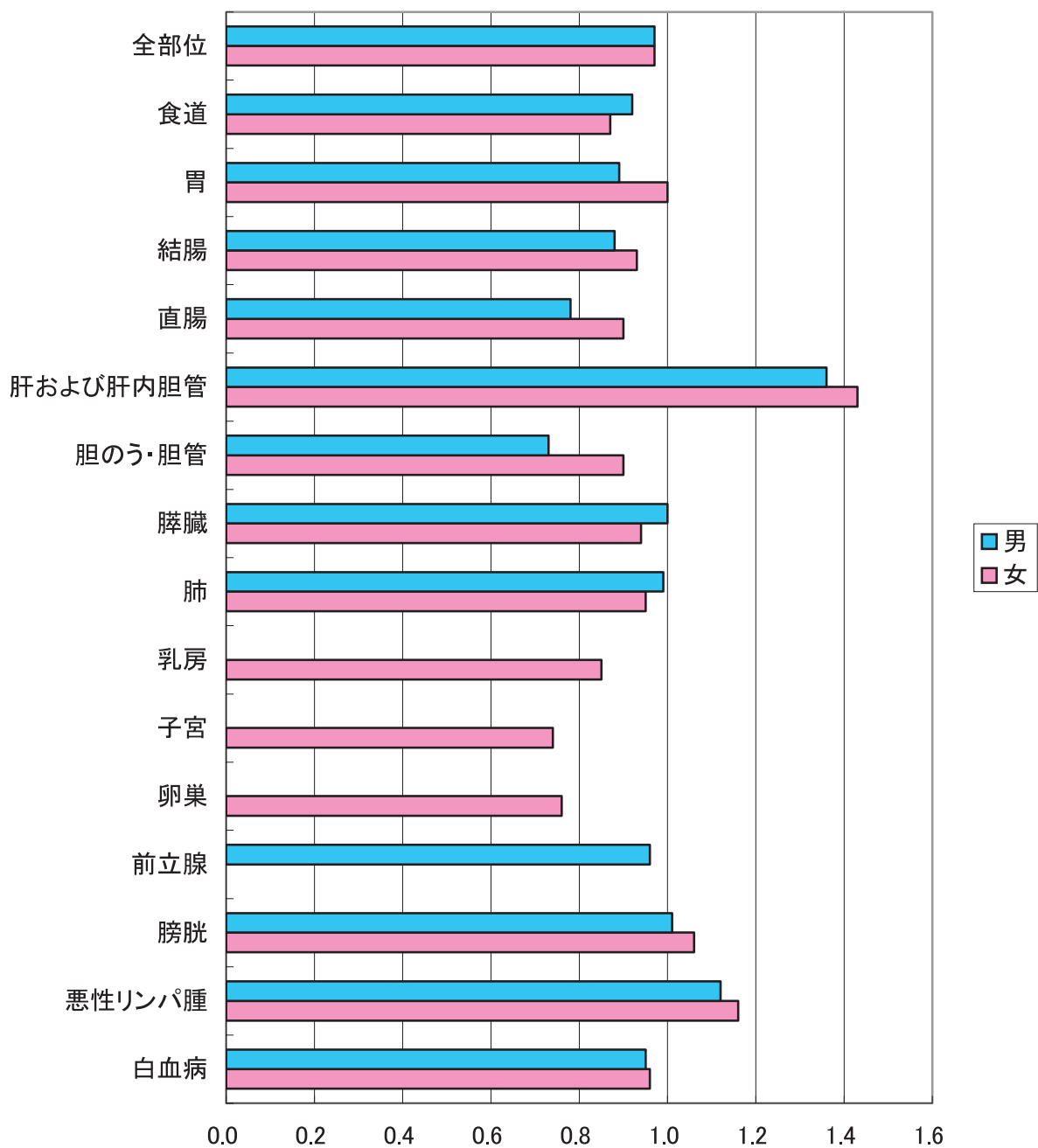


図1-2 部位別標準化死亡比 (全国を基準)

### (3) 二次保健医療圏別の標準化死亡比

広島県を基準として二次保健医療圏別の標準化死亡比を見ると、全部位については男では呉地域が1.13と若干高めであったが、その他の地区で差はなかった。また女では備北地区で0.87と低めであったが、その他の地域では差は見られなかった\*。(図1-3、付表4-C2参照)

\*標準化死亡比は95%信頼区間が1を挟んでいる場合は、1と差がないとみなす。

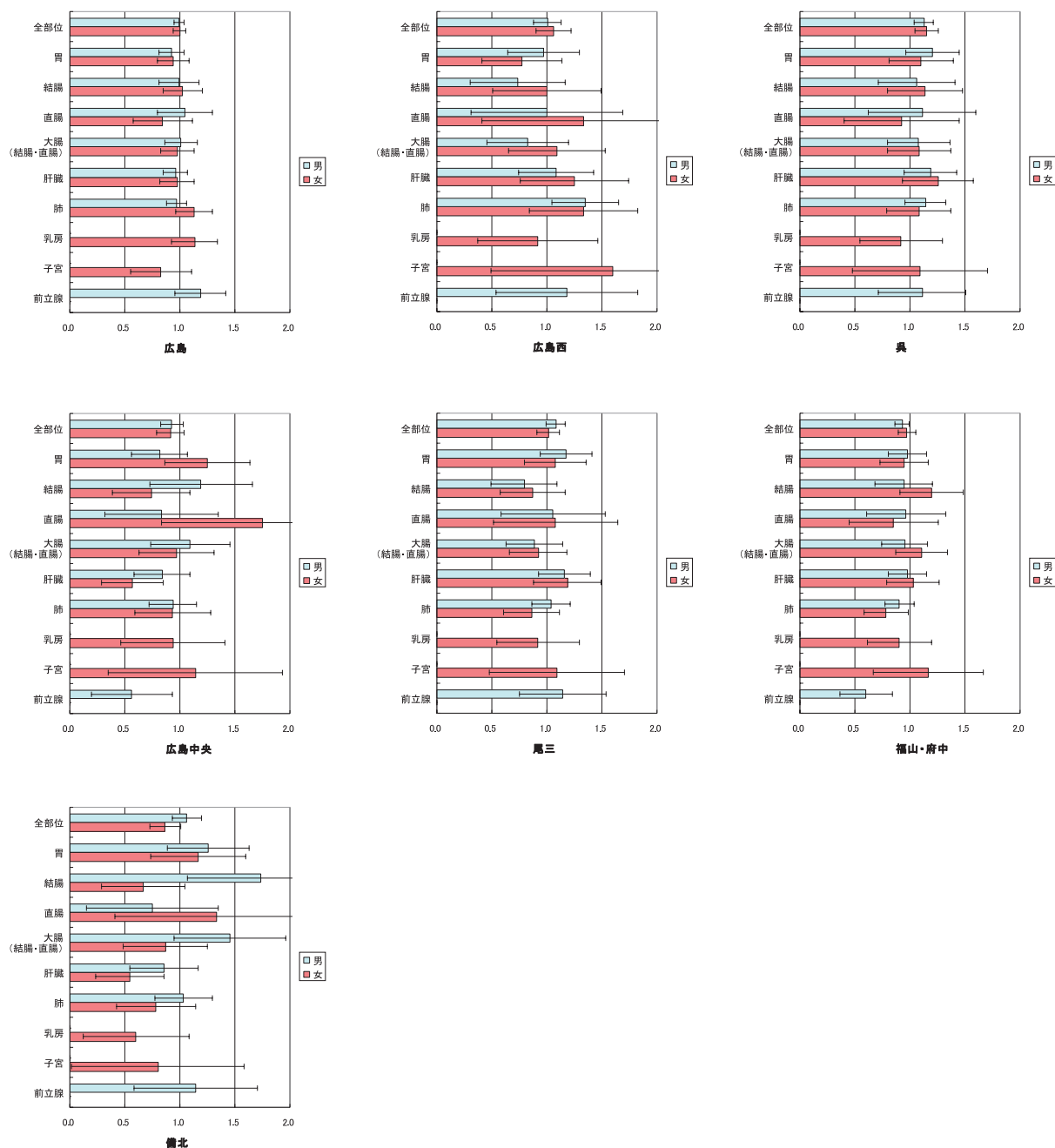


図1-3 二次保健医療圏別標準化死亡比（広島県を基準）

## 2. がん罹患

### (1) 登録精度（上皮内がんを除く）

DCN 割合は全部位で11.3%（上皮内がんを含むと10.2%）であった。昨年は15.7%（上皮内がんを含むと14.6%）であり、登録の完全性の精度がさらに向上している。部位別にみると、DCN 割合は、予後不良の部位において高く、膵臓がん、多発性骨髄腫、胆のう・胆管がん、肝がん、肺がんで20%前後であった。DCO 割合は全部位で5.4%（上皮内がんを含むと4.9%）であった。DCN 割合から6%近く減少したのは、遡り調査の成果である。（図2-1、表8-A参照）

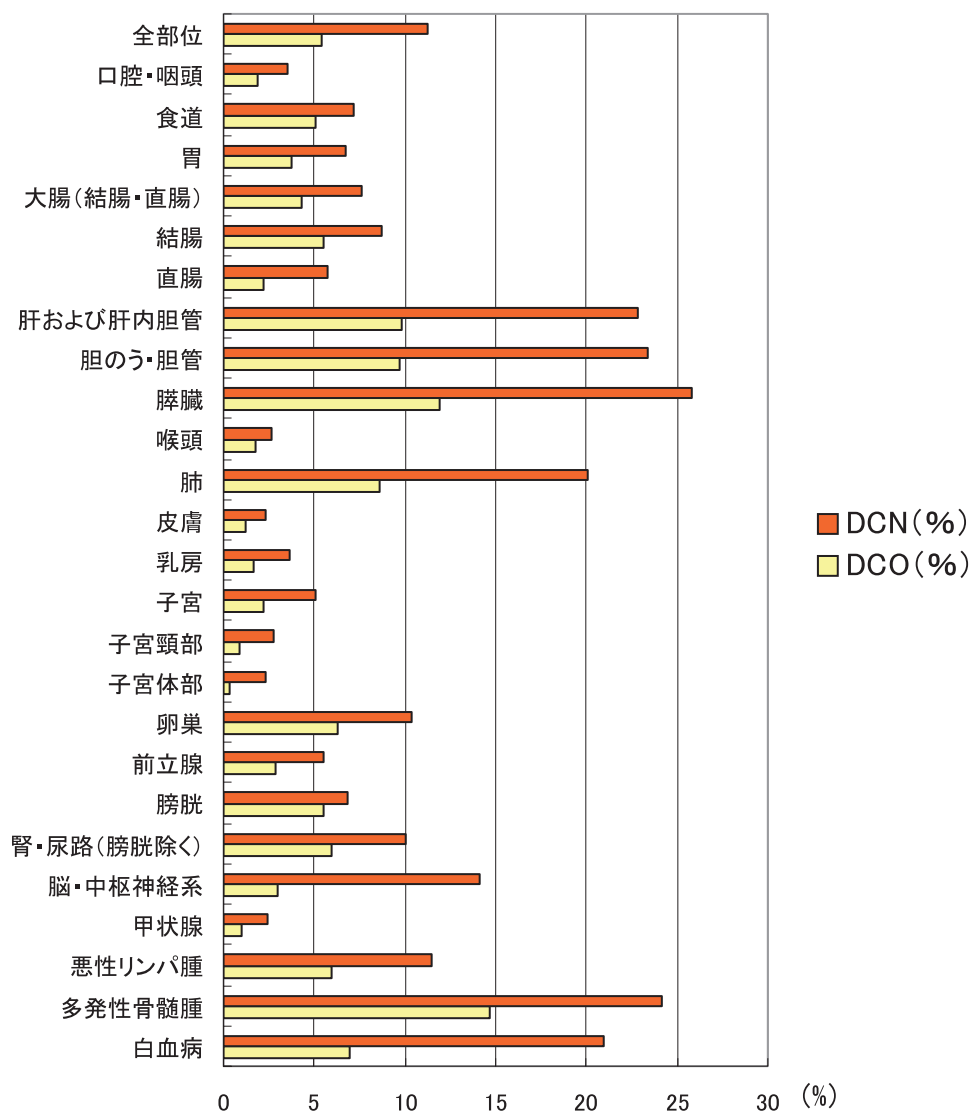


図2-1 部位別 DCN 割合・DCO 割合

ID比は全部位で2.43（上皮内がんを含むと2.68）であった。昨年は2.35（上皮内がんを含むと2.53）であり、昨年より増加がみられたが、概ね同程度であった。DCN割合・DCO割合が高い部位でID比は低くなる傾向にあった。皮膚がん、甲状腺がんなど予後が良好な部位においてID比が高かった。（図2-2、表8-A参照）

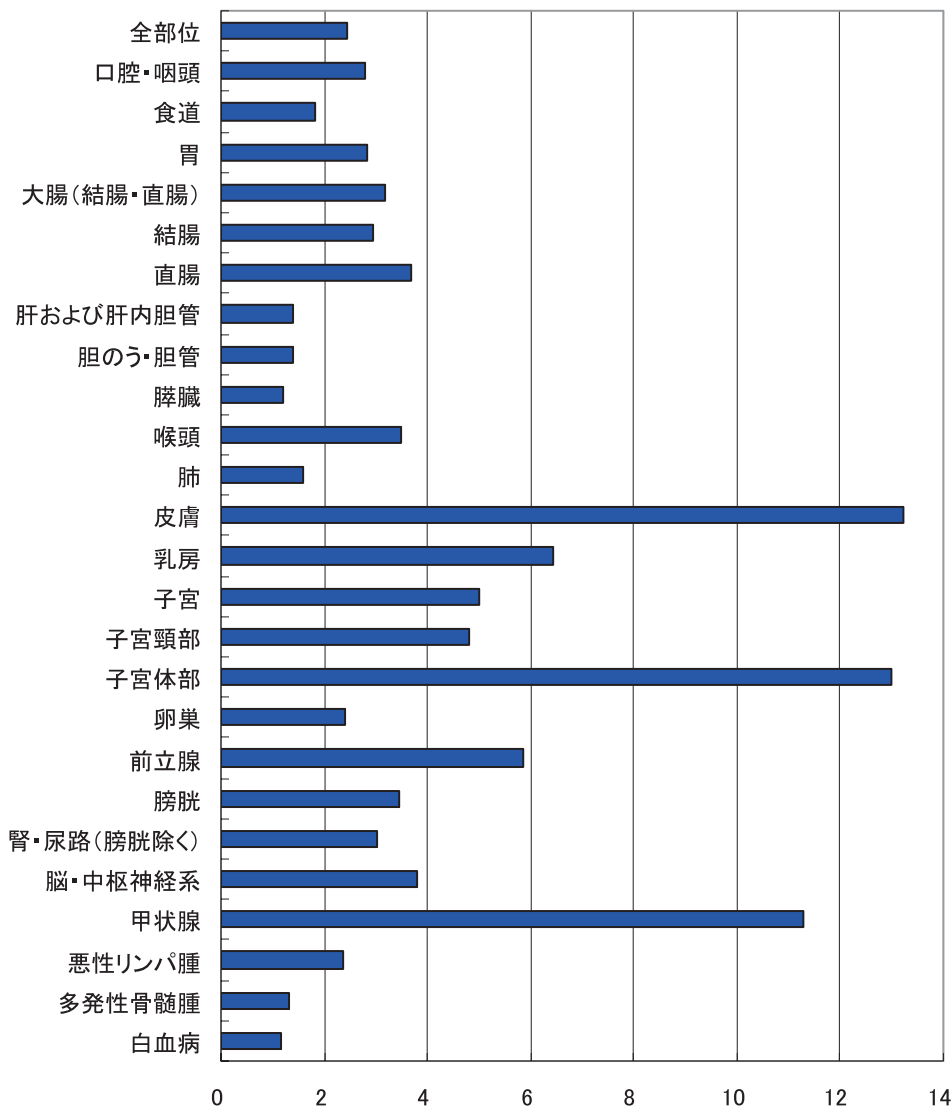


図2-2 部位別ID比

罹患数における資料源をみると臨床登録からの届出情報が73.4%と最も多く、次いで病理登録からの届出情報が66.7%であった。（表C、付表6-1、付表6-2、付表6-3、付表6-4参照）

表C 広島県地域がん登録罹患数における資料源ごとの数および割合（上皮内がんを除く）

罹患数	広島県地域がん 登録情報 (臨床登録)	広島県腫瘍 登録情報 (病理登録)	広島市地域がん 登録情報 (採録情報)	死亡情報で初めて 把握された症例 (DCN)	死亡情報のみ の症例 (DCO)
18,786	13,792 73.4%	12,521 66.7%	1,561 8.3%	2,122 11.3%	1,023 5.4%

(2) 部位別がん罹患数および罹患割合

平成19年(2007)のがん罹患数は18,786件(上皮内がんを含むと20,730件)であった。男性では10,876件(上皮内がんを含むと11,854件)、女性では7,910件(上皮内がんを含むと8,876件)であった。また、がんの年齢調整罹患率(昭和60年日本人口で調整、人口10万対)は男性470.9(上皮内がんを含むと514.2)、女性302.4(上皮内がんを含むと353.9)であった。

がん罹患数を部位別にみると、男では胃がんが最も多く、次いで肺がん、結腸がんの順に多かった。女では乳がんが最も多く、次いで結腸がん、胃がんの順に多かったが、上皮内がんを含めても同様の傾向であった。(図2-3、図2-4、図2-5、表1-A、B参照)

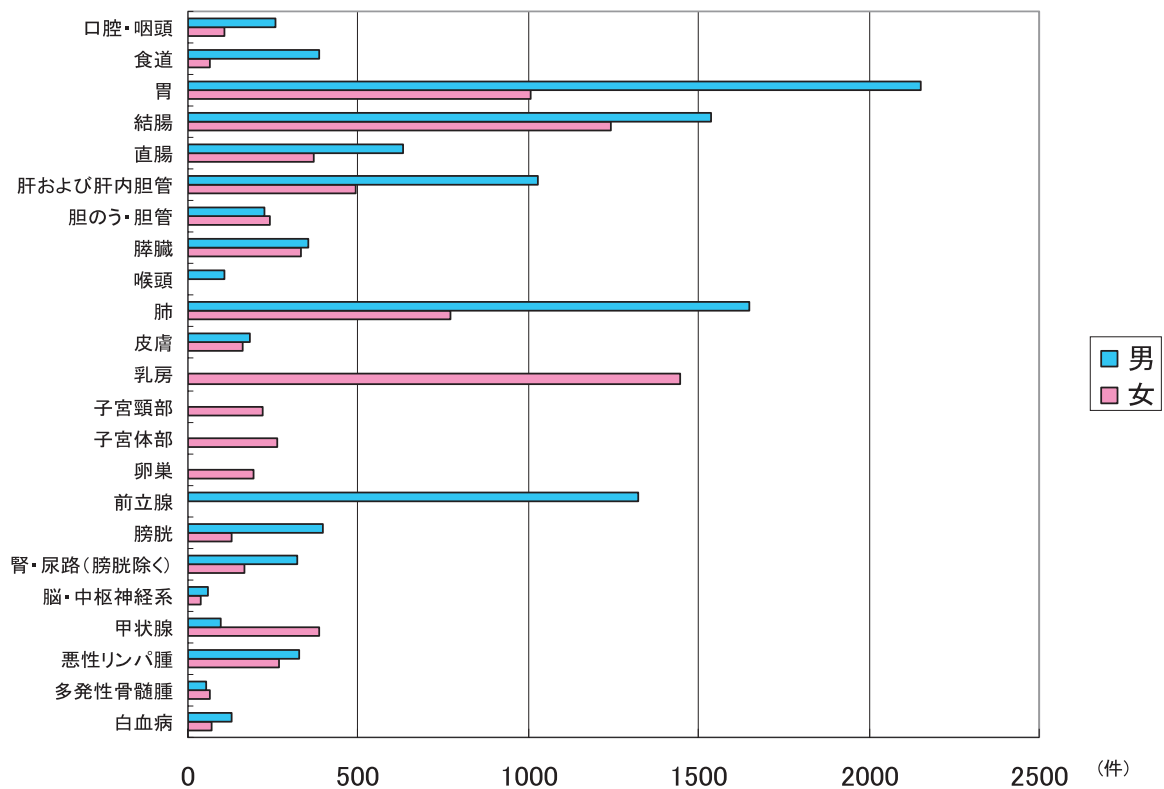


図2-3 部位別がん罹患数 (上皮内がんを除く)

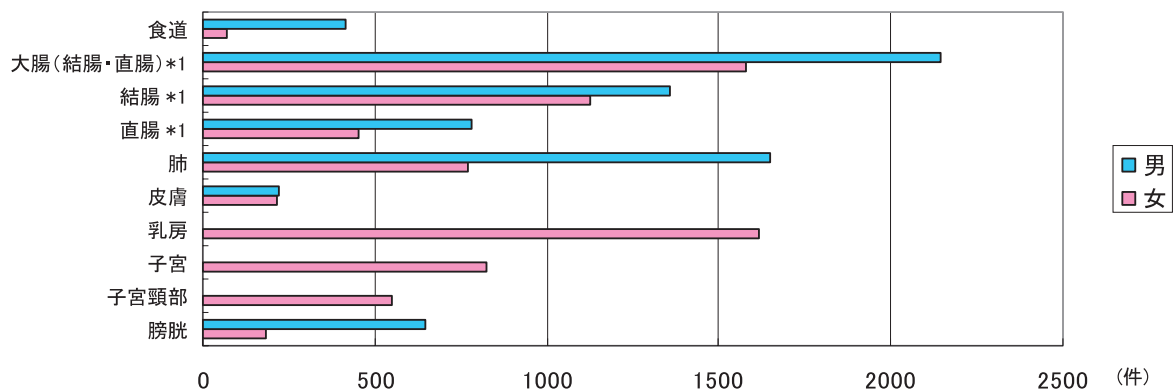


図2-4 部位別がん罹患数 (上皮内がんを含む)

\*1 粘膜がんを含む

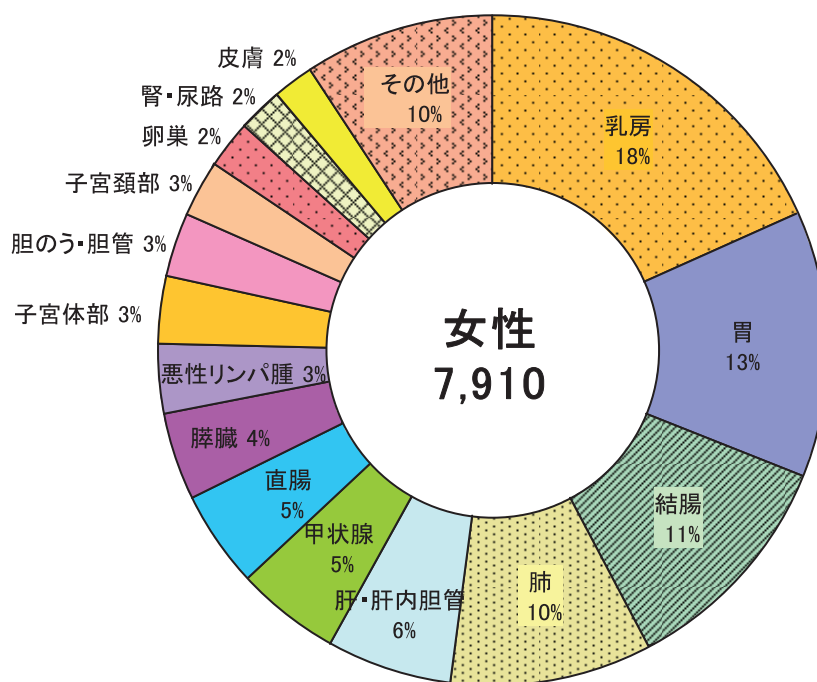
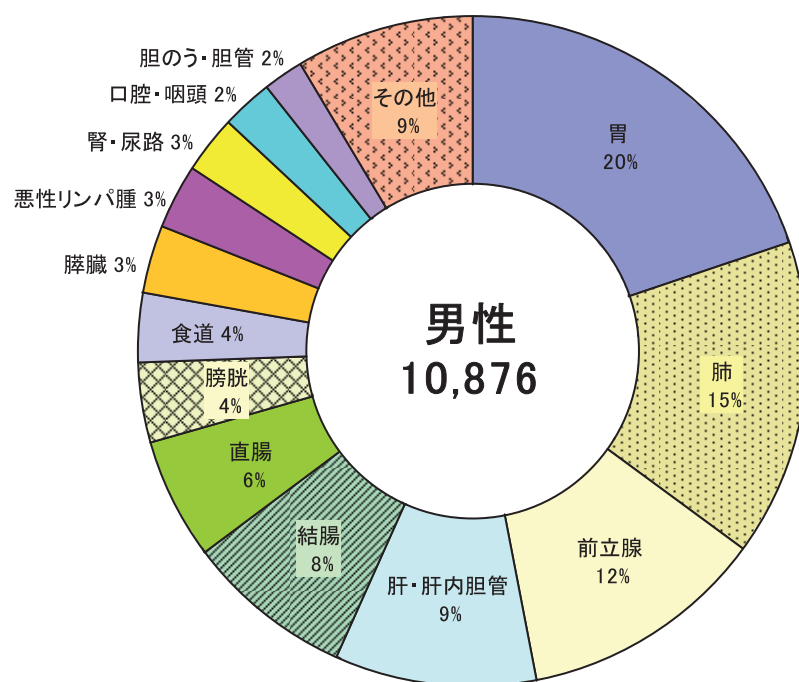


図 2 - 5 部位別がん罹患割合（上皮内がんを除く）

### (3) 年齢階級別がん罹患率

全部位について性別年齢階級別にごん罹患率をみると、35～39歳、40～44歳、45～49歳の年齢階級では男より女の罹患率が高い。これらは子宮頸がんや乳がんの影響である。それ以上の年齢階級では女より男の罹患率が約2倍高かった。(図2-6、表3-A、B参照)

多くの部位では、40歳ごろから罹患率が高くなっているが、乳がん、甲状腺がん、子宮頸がんでは20歳代から罹患率が高くなってきている。特に子宮頸がんは上皮内がんを含めると10歳代から罹患率が高くなってきている。脳・中枢神経系がん、白血病は20歳未満の子供や、20～30歳代の若年層でも一定の罹患率が観察されている。

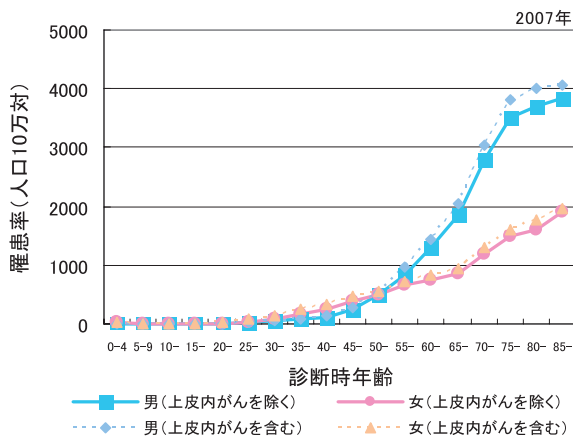


図2-6 a 年齢階級別罹患率(人口10万対); 全部位

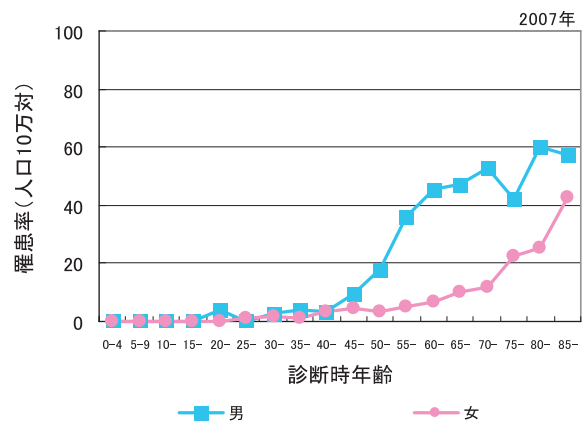


図2-6 b 年齢階級別罹患率(人口10万対); 口腔・咽頭

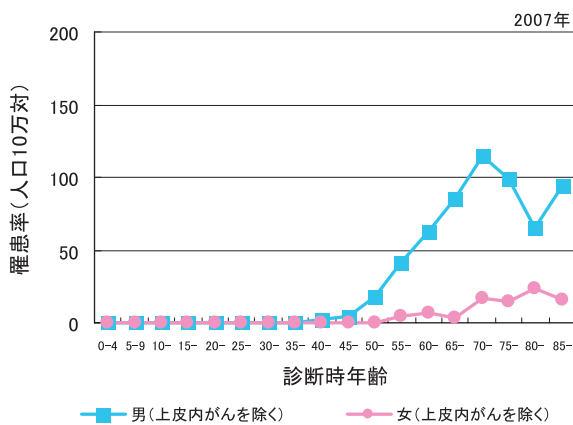


図2-6 c 年齢階級別罹患率(人口10万対); 食道

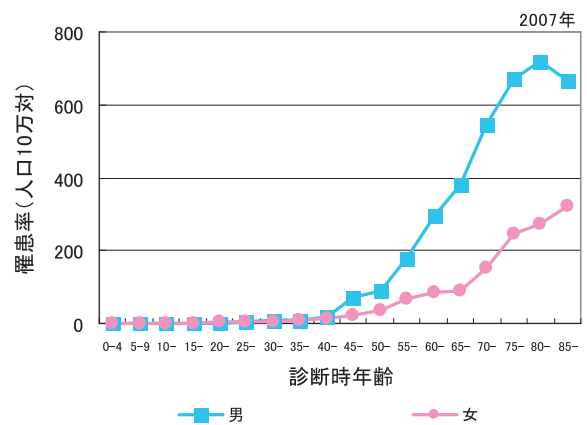


図2-6 d 年齢階級別罹患率(人口10万対); 胃



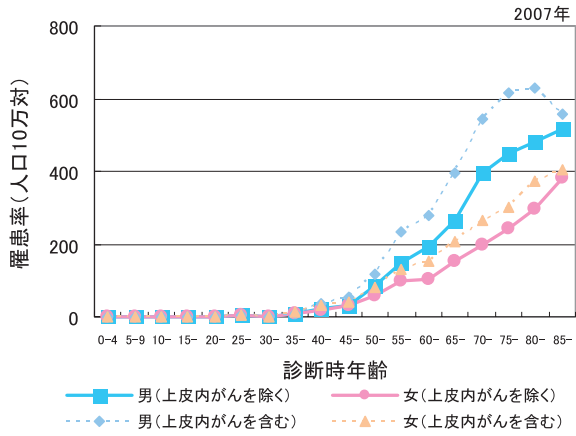


図 2 - 6 e 年齢階級別罹患率(人口10万対);  
大腸(結腸・直腸)

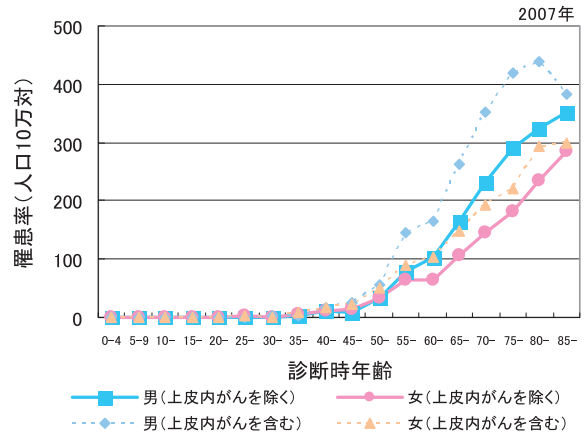


図 2 - 6 f 年齢階級別罹患率(人口10万対);  
結腸

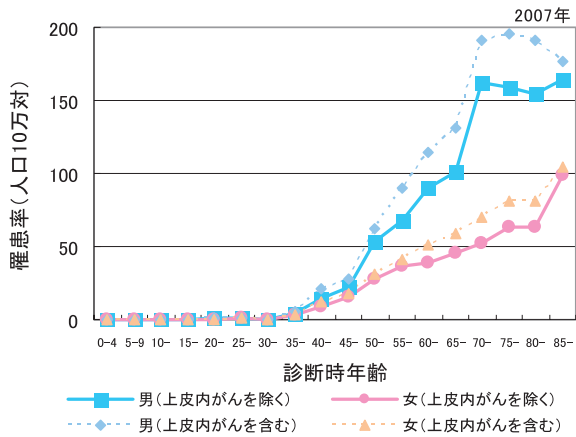


図 2 - 6 g 年齢階級別罹患率(人口10万対);  
直腸

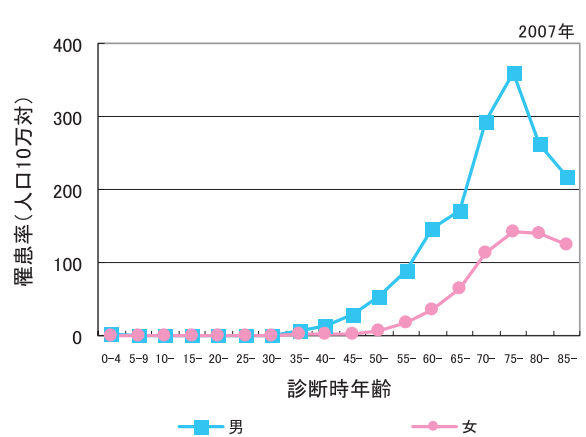


図 2 - 6 h 年齢階級別罹患率(人口10万対);  
肝および肝内胆管

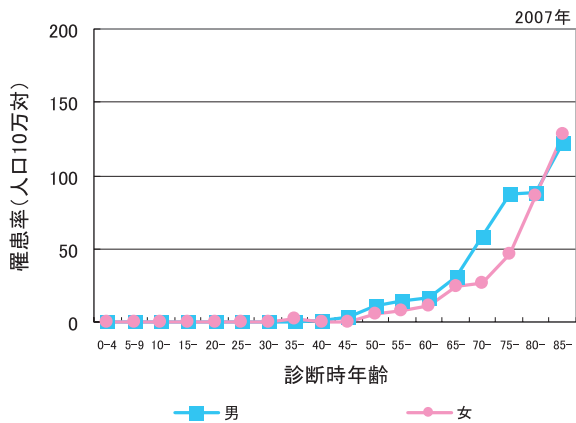


図 2 - 6 i 年齢階級別罹患率(人口10万対);  
胆のう・胆管

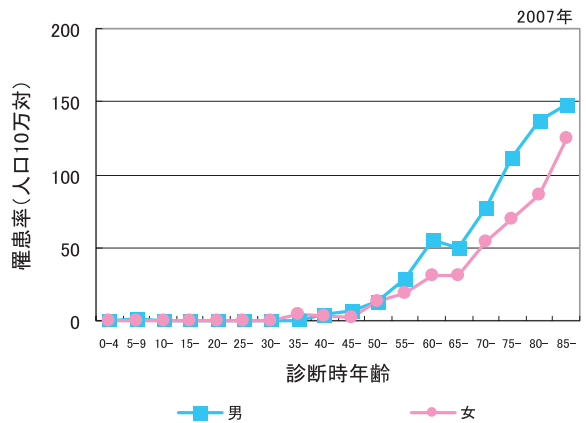


図 2 - 6 j 年齢階級別罹患率(人口10万対);  
膵臓

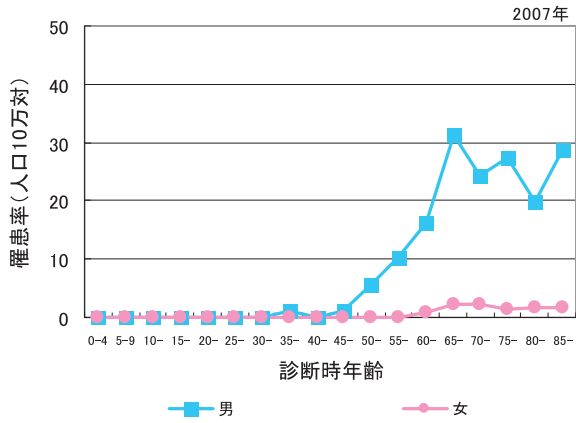


図 2-6 k 年齢階級別罹患率(人口10万対); 喉頭

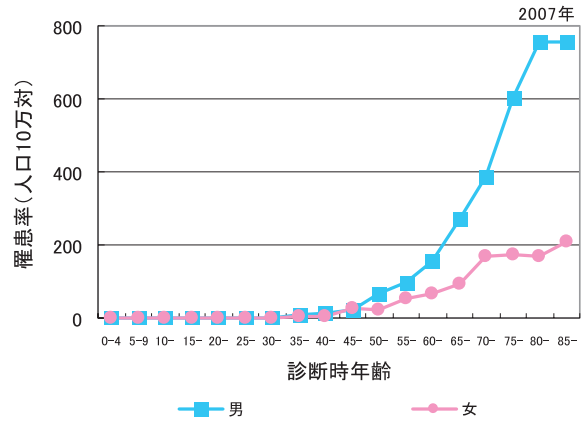


図 2-6 l 年齢階級別罹患率(人口10万対); 肺

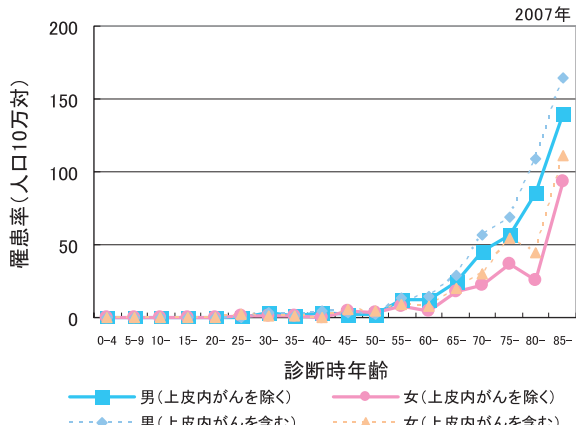


図 2-6 m 年齢階級別罹患率(人口10万対); 皮膚

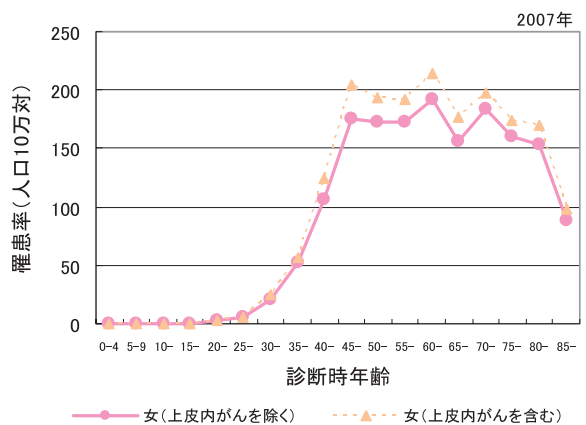


図 2-6 n 年齢階級別罹患率(人口10万対); 乳房

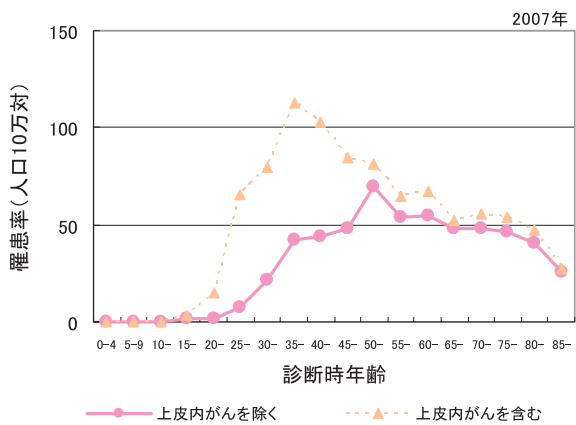


図 2-6 o 年齢階級別罹患率(人口10万対); 子宮

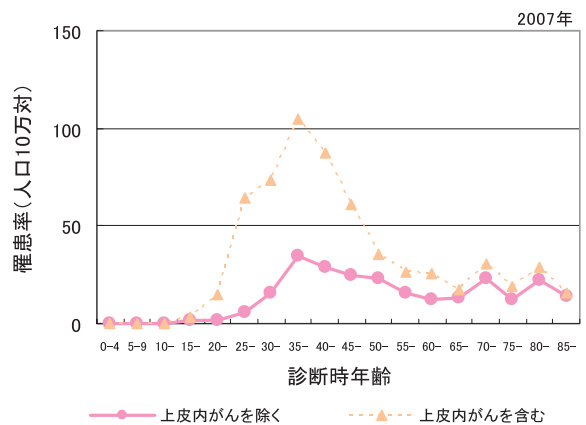


図 2-6 p 年齢階級別罹患率(人口10万対); 子宮頸部

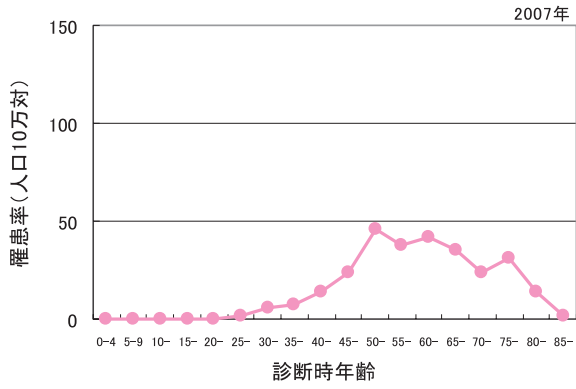


図 2-6 q 年齢階級別罹患率(人口10万対);  
子宮体部

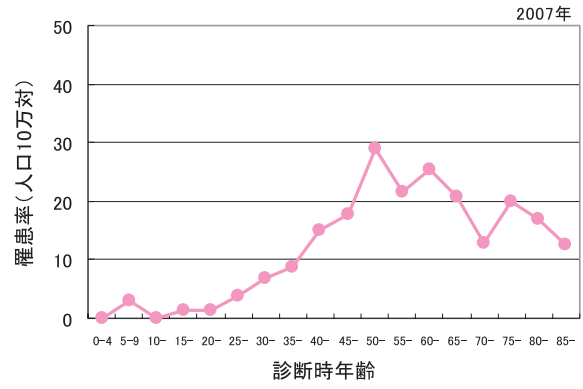


図 2-6 r 年齢階級別罹患率(人口10万対);  
卵巣

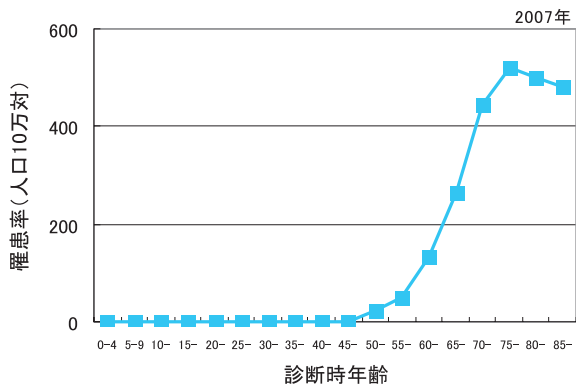


図 2-6 s 年齢階級別罹患率(人口10万対);  
前立腺

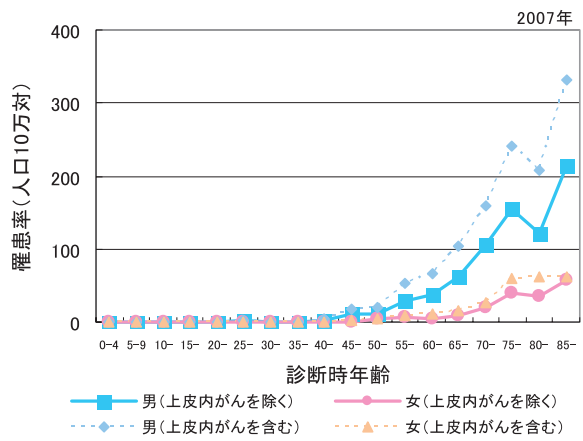


図 2-6 t 年齢階級別罹患率(人口10万対);  
膀胱

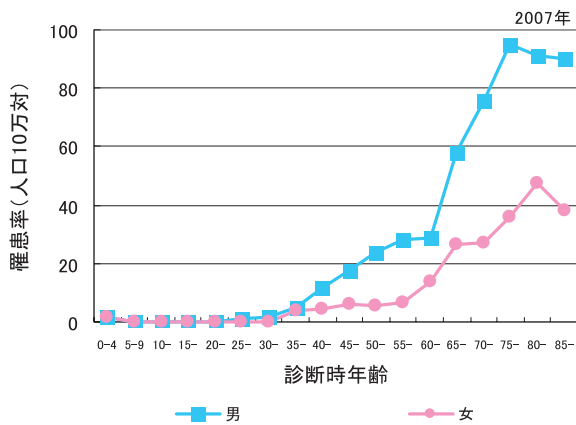


図 2-6 u 年齢階級別罹患率(人口10万対);  
腎・尿路(膀胱除く)

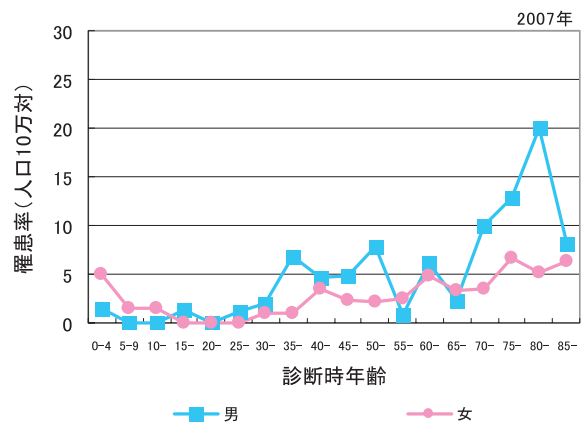


図 2-6 v 年齢階級別罹患率(人口10万対);  
脳・中枢神経系

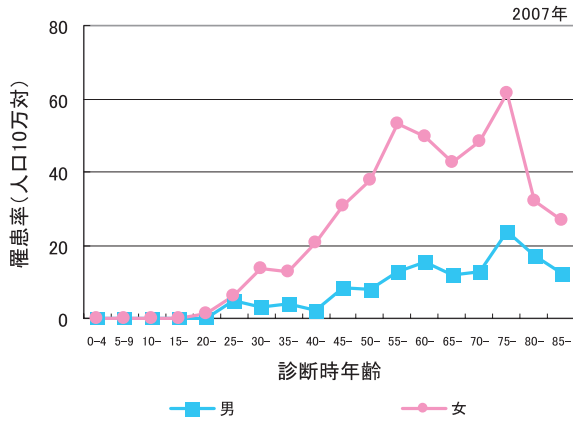


図 2 - 6 w 年齢階級別罹患率(人口10万対);  
甲状腺

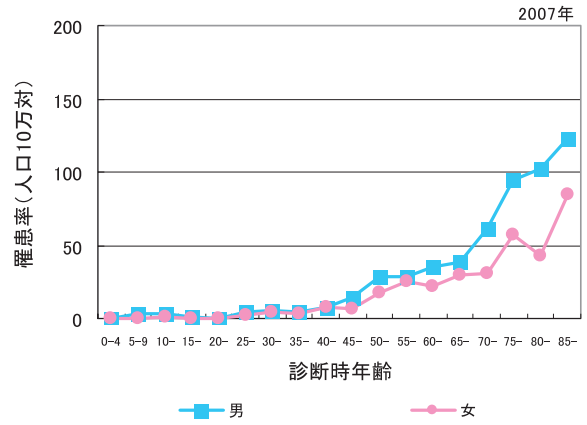


図 2 - 6 x 年齢階級別罹患率(人口10万対);  
悪性リンパ腫

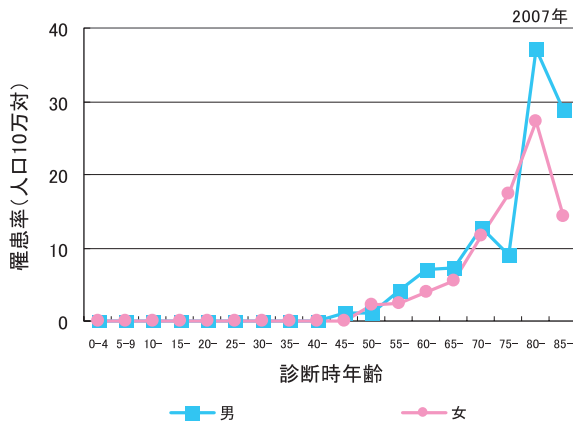


図 2 - 6 y 年齢階級別罹患率(人口10万対);  
多発性骨髄腫

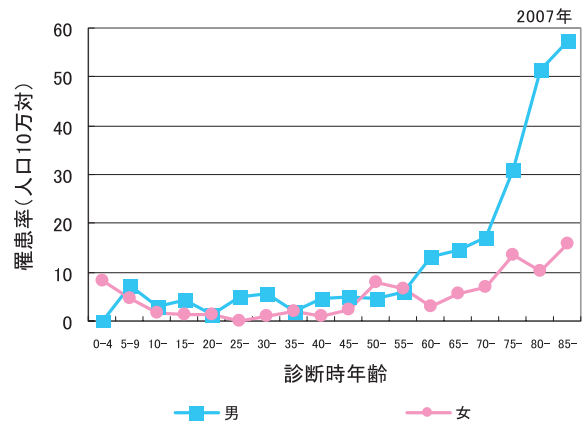


図 2 - 6 z 年齢階級別罹患率(人口10万対);  
白血病

#### (4) 発見経緯

部位別にごんと診断されるに至った発見経緯をみると、その他・不明が最も多いが、これは自覚症状ありで受診したものを含んでいるためである。乳がん、子宮頸がん、がん検診の割合が高かった。肝および肝内胆管では約半数が他疾患経過観察中に発見されている。(図2-7、表4-A、B参照)

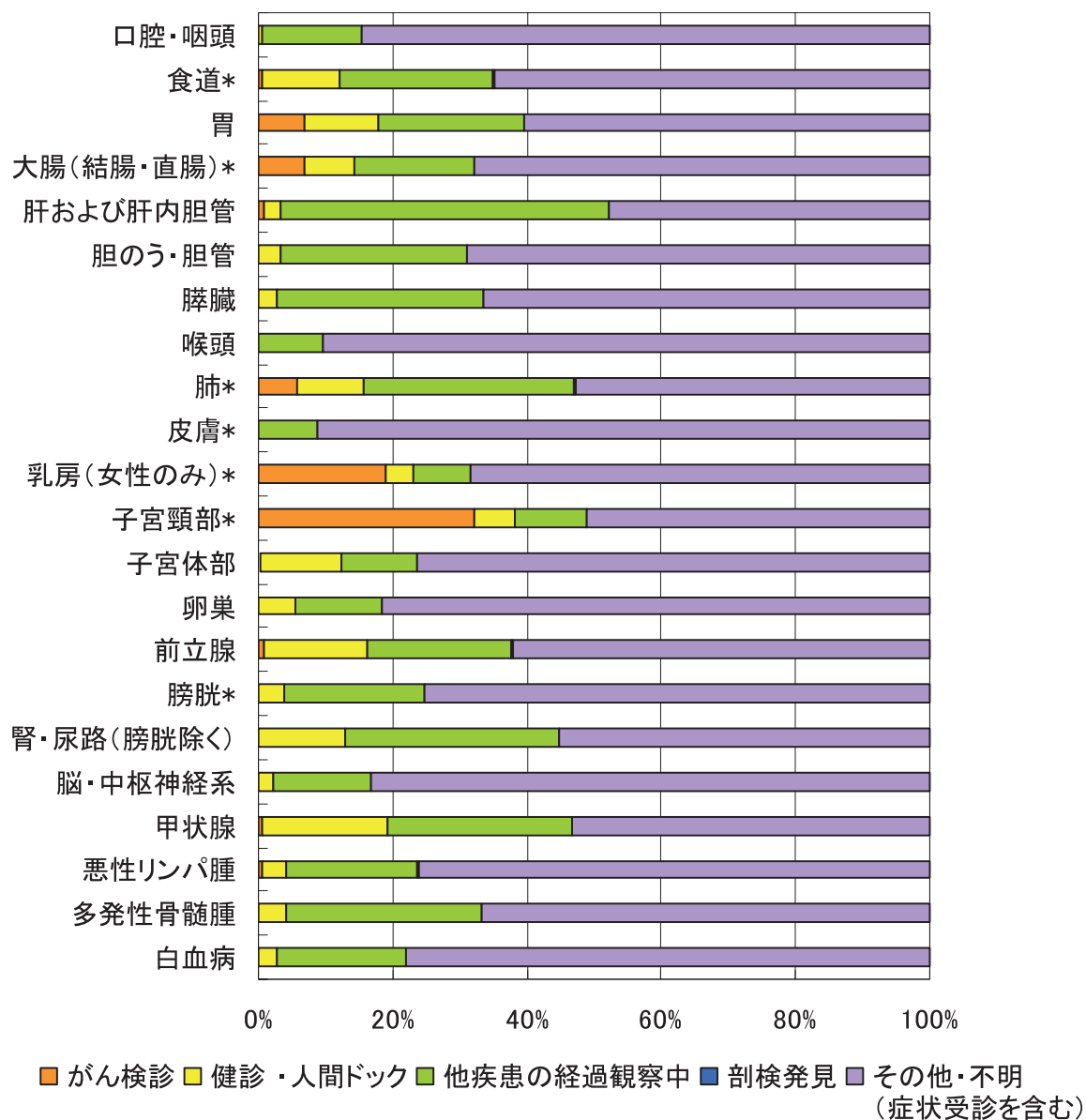


図2-7 部位別発見経緯 (DCO を除く)

\* 上皮内がんを含む

### (5) 臨床進行度

臨床進行度は、全部位（上皮内がんを含む）で、上皮内がんが9.9%、限局38.6%、所属リンパ節転移8.6%、隣接臓器浸潤13.3%、遠隔転移14.3%、不明が15.3%であった。昨年の不明の割合は28.3%であり、不明割合が減少しデータの精度が向上している。部位別に臨床進行度をみると、子宮頸がんは60.0%が上皮内がんであり、膀胱がん、結腸がんも上皮内がんの割合が高かった。また、子宮体がん、喉頭がんでは限局割合が高く、膵臓がんや肺がんでは遠隔転移割合が高かった。（図2-8、表5-A、B参照）

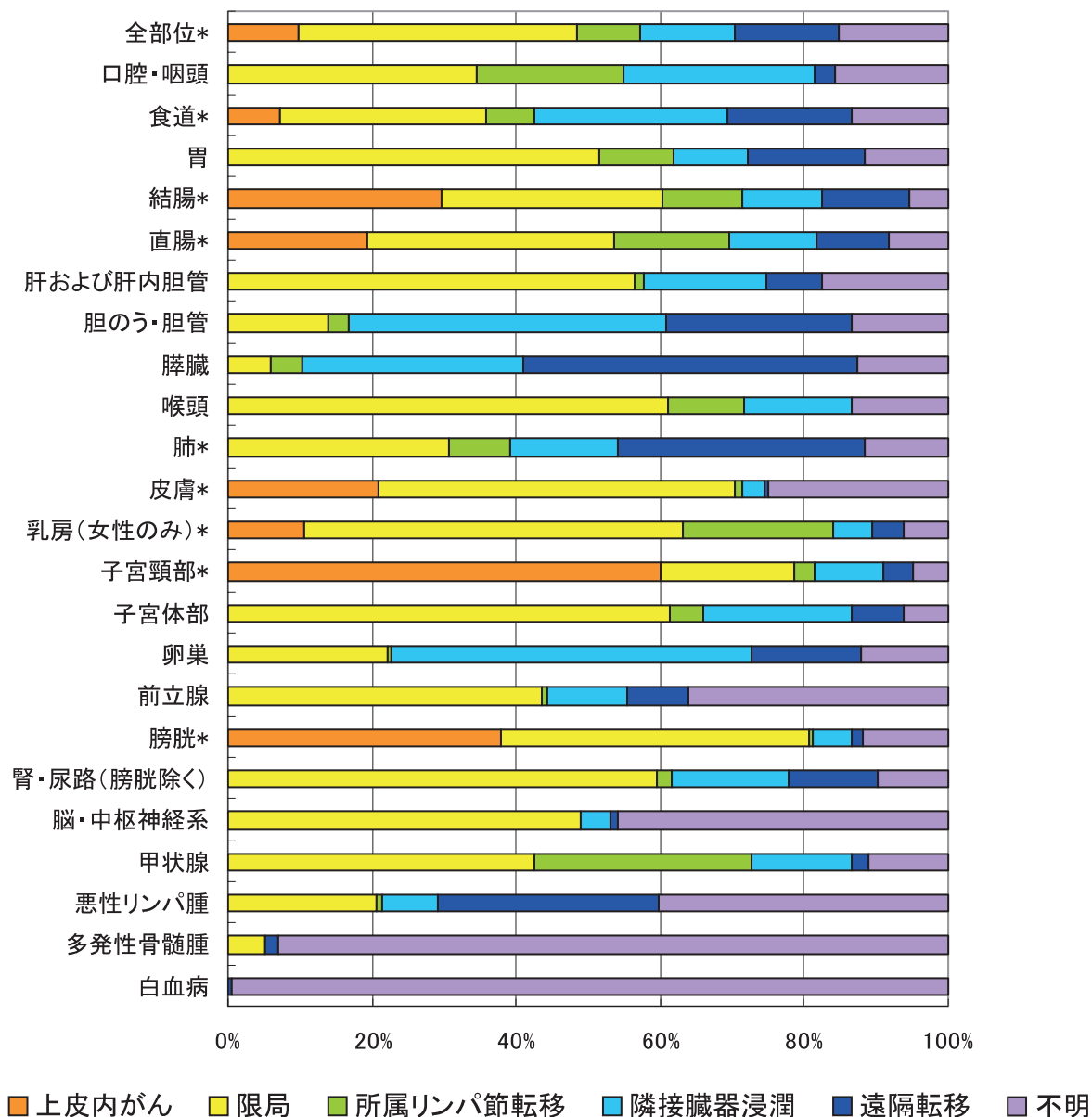


図2-8 部位別臨床進行度（対象はDCOを除く）

\*上皮内がんを含む

胃の限局には粘膜がんを含む。結腸・直腸の上皮内がんは粘膜がんまでを指す。

子宮頸部の上皮内はCIN3（cervical intraepithelial neoplasm 3）を含む。

## (6) 受療割合

初回治療の方法について、外科的、体腔鏡的、内視鏡的手術を「切除」、化学療法、免疫療法、内分泌療法を「薬剤」、特異療法なしまたは治療方法不明を「その他・不明」として、受けた治療の割合を求めた。部位別にみると、子宮体がん、乳がん「切除」の割合が高く、口腔・咽頭がんや喉頭がん放射線療法の「割合」が高かった。また白血病、乳がん、卵巣がん「薬剤」の割合が高かった。(図2-9、表6-A、B参照)

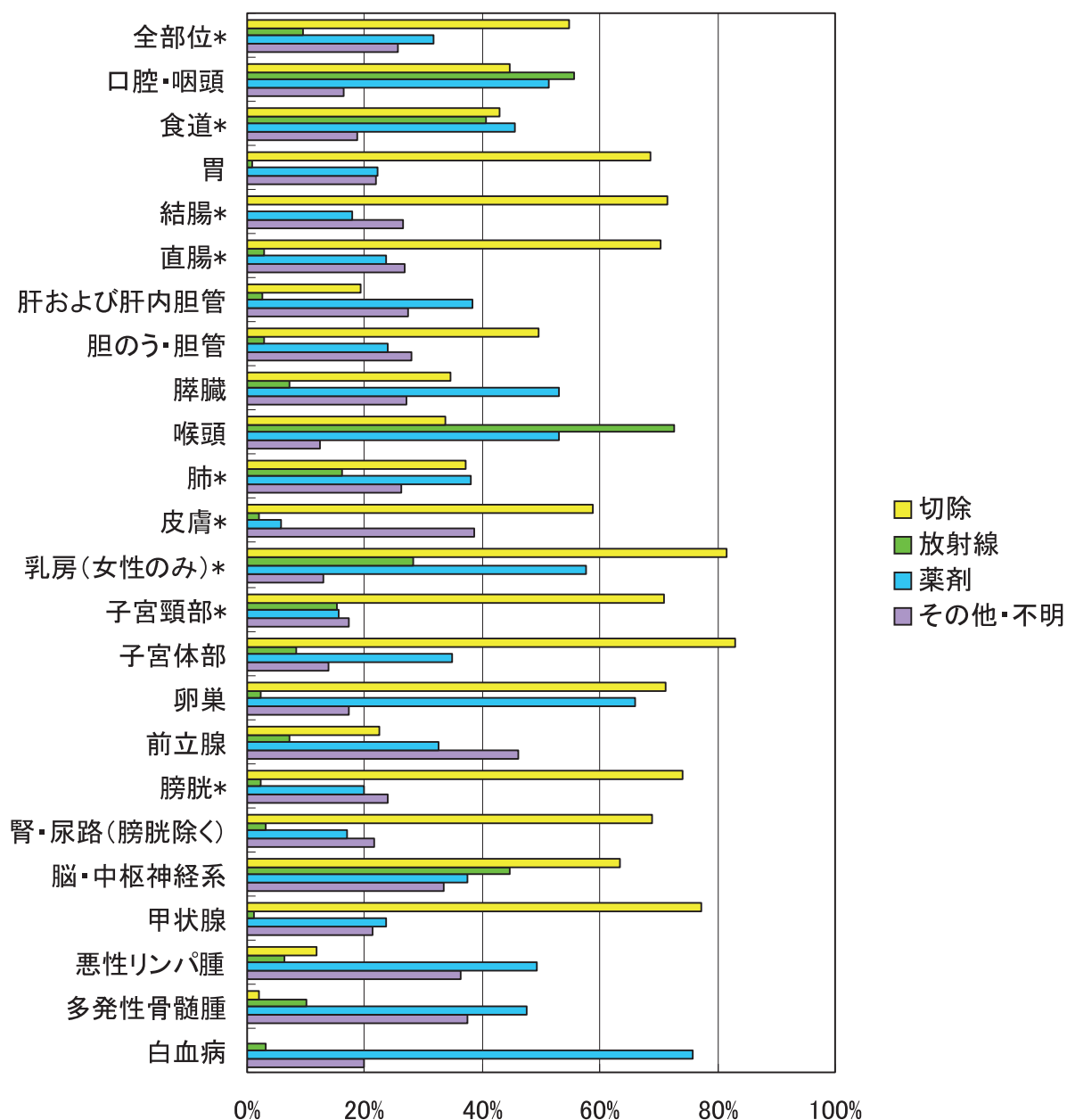


図2-9 部位別受療割合

\* 上皮内がんを含む

(7) 二次保健医療圏別の登録精度と標準化罹患比（上皮内がんを除く）

二次保健医療圏別の登録精度を見ると、いずれの医療圏でも届出票の割合は60.4%～78.2%で、呉地域以外は70%以上である。腫瘍登録からの病理登録情報は広島西部地域では登録率が70%を越えているが、尾三地域で54.8%、福山・府中地域で28.7%と特に低くなっている。また、DCN割合、DCO割合を見ると、広島地域はDCN割合が6.8%、DCO割合が3.4%と最も低く、福山・府中地域はDCN割合が21.0%、DCO割合が10.0%と最も高く、地域によってばらつきがみられた。しかし、いずれの地域もMCIJ全国がんモニタリング集計における全国推計罹患率参加条件である「DCO割合が25%未満」の一定精度はクリアしている。

表D 二次医療圏別の罹患数に対する資料源の数及び割合と登録精度（2007年）

医療圏 (保健所)	罹患数	広島県地域 がん登録情報 (届出情報)		広島県腫瘍 登録情報 (病理登録情報)		広島市地域 がん登録情報 (採録情報)		死亡情報で初めて 把握された症例 DCN		死亡情報のみの 症例 DCO	
		届出数	割合	届出数	割合	採録数	割合	数	割合	数	割合
広島県	18,786	13,792	73.4%	12,521	66.7%	1,561	8.3%	2,122	11.3%	1,023	5.4%
広島	8,501	6,338	74.6%	6,561	77.2%	1,560	18.4%	575	6.8%	288	3.4%
広島西	921	682	74.0%	694	75.4%	1	0.1%	95	10.3%	61	6.6%
呉	2,280	1,378	60.4%	1,712	75.1%	0	0.0%	300	13.2%	108	4.7%
広島中央	1,258	950	75.5%	925	73.5%	0	0.0%	127	10.1%	66	5.2%
尾三	1,999	1,515	75.8%	1,096	54.8%	0	0.0%	352	17.6%	167	8.4%
福山・府中	2,865	2,177	76.0%	822	28.7%	0	0.0%	603	21.0%	287	10.0%
備北	962	752	78.2%	711	73.9%	0	0.0%	70	7.3%	46	4.8%

二次保健医療圏別に広島県全域の罹患率を1として、標準化罹患比を見ると、全部位では男では備北地域が1.17、女では広島地域で1.08と最も高かった。部位別に見ると、備北地域の前立腺がんの標準化罹患比が1.64であり、昨年同様高い傾向が見られた。また福山・府中地域は全部位で男0.80、女0.89と最も低く、胃がんや大腸（結腸・直腸）がん、肺がん、前立腺がんで低い傾向が見られた。登録精度をみると、福山・府中地域は腫瘍登録からの病理登録情報が少なく、DCN割合が高いことから登録精度が低いことが標準化罹患比を低くしている要因のひとつと考えられる。



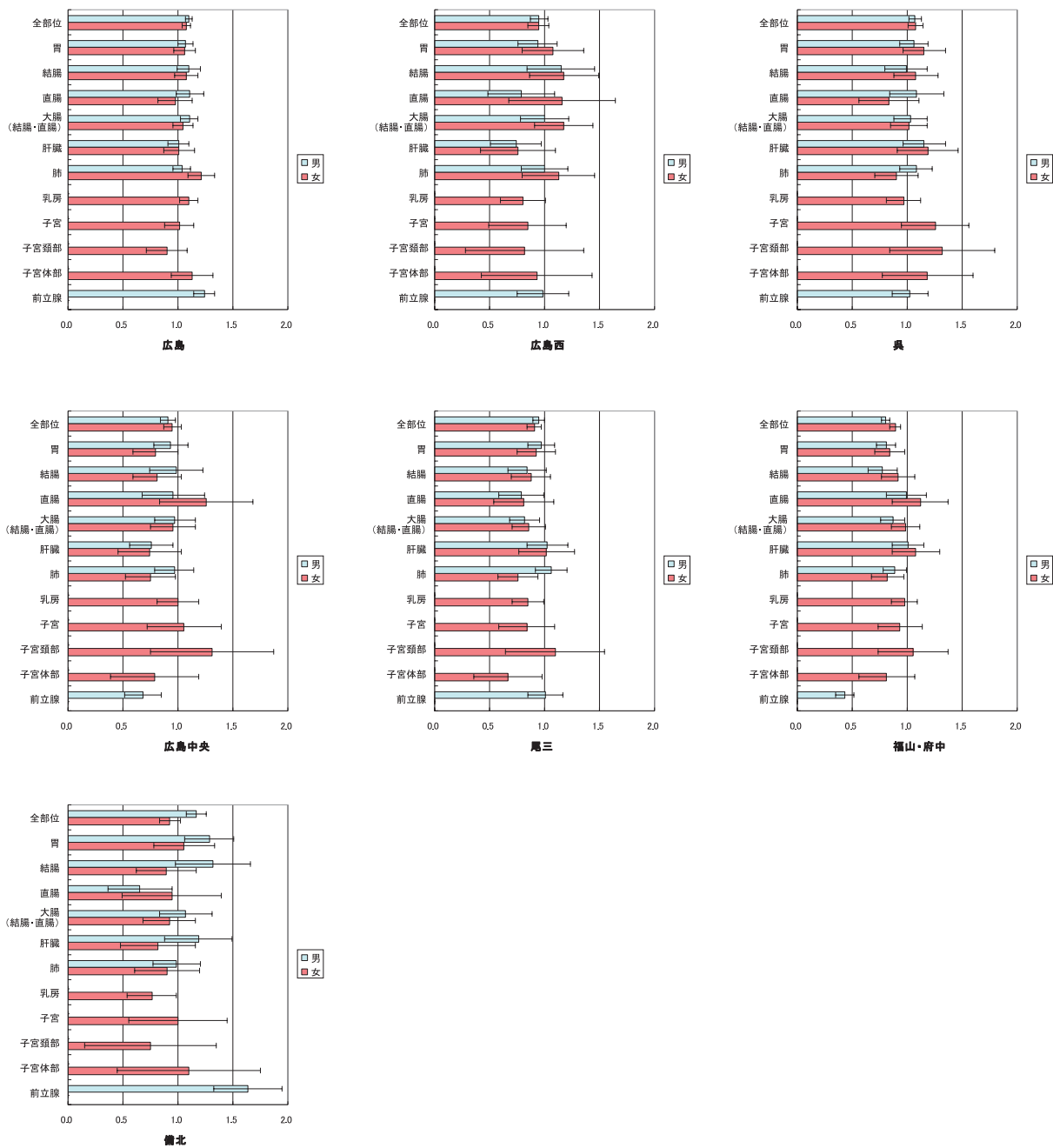


図 2-10 二次保健医療圏別の部位別標準化罹患比（広島県の罹患率を基準とする）

### 3. 登録精度指標の推移

広島県および全国モニタリング集計における年齢調整罹患率と登録精度の年次推移を示す。全国と比較すると、平成16年（2004）以前は広島県の DCN 割合、DCO 割合ともに高いが、平成17年（2005）診断患者からは、DCN 割合が減少し、登録の完全性が向上している。さらに平成17年（2005）診断からは遡り調査を開始したことで、DCO 割合が著しく向上している。全国と比較して ID 比が高いのは、病理登録で詳細な病理診断情報を得られていることが大きい。

表E 広島県および全国における年齢調整罹患率および登録精度の年次推移（上皮内がんを含む）

	年齢調整罹患率 <sup>1)</sup>		DCN(%)		DCO(%)		ID比		MV(%) <sup>3)</sup>	
	広島県	全国 <sup>2)</sup>	広島県	全国 <sup>2)</sup>	広島県	全国 <sup>2)</sup>	広島県	全国 <sup>2)</sup>	広島県	全国 <sup>2)</sup>
2002	369.3	-	28.2 <sup>4)</sup>	-	28.2 <sup>4)</sup>	-	2.32 <sup>4)</sup>	-	-	-
2003	399.1	322.3	27.5	25.0	27.5	19.5	2.64	1.91	70.8	72.8
2004	383.0	321.5	26.8	26.2	26.8	20.0	2.44	1.86	71.6	71.8
2005	411.7	328.2	18.2	21.9	9.4	17.0	2.63	1.96	94.9	73.0
2006	391.2	312.1	14.6	22.5	5.9	17.1	2.53	1.97	94.6	85.4
2007	420.6	-	10.2	-	4.9	-	2.68	-	90.6	-

- 1) 基準人口を昭和60年(1985)日本モデル人口とした場合の年齢調整罹患率(上皮内がんを含む)
- 2) 国立がん研究センターがん対策情報センターが発行しているMCIJ(Monitoring of Cancer Incidence in Japan)2002～2006で報告された、推計参加登録から推計された値を引用
- 3) 全罹患数における病理診断のある症例の割合
- 4) 上皮内がんを含まず